

原三溪市民研究会第3回シンポジウム 原三溪と本牧のまちづくり ～過去と現在の対話～

ペリー艦隊が浦賀沖に来航した頃の本牧は、豊かな海岸線を備えた景勝の土地柄であった。開港によって急速に発展を遂げ、人口が増加する横浜の中心街関内地区に対しては奥座敷に位置していた。その未開の本牧三之谷の土地を購入して別荘を建てたのが原善三郎であった。後を継いだ原三溪は三溪園という、自然環境の中に古建築を巧みに配した名園を作り、一般公開する。やがて鉄道が通り住宅が建設され、海岸は埋め立てられる。こうした初期の頃の本牧のまちづくりに対して、敗戦後は長い接収によって米軍に土地を奪われる。本牧が元気を取り戻すのは1980年代に入ってからであり、今日ようやく余裕をもってまちづくりを進めてゆけるようになった。第1部は内海孝顧問による基調講演「善三郎の着眼と富太郎の本牧」、第2部は地元で熱心にまちづくりの活動を続けている人にパネラーになってもらい、本牧が抱えている問題点をあぶり出した。会場はおよそ100人の参加者が集まり、熱心に耳を傾けていた。会場の円形フォーラムは親密感がただようこじんまりとした空間であった。



横浜美術館の柏木副館長から開会の挨拶



内海孝氏の基調講演



左から猿渡紀代子氏、小島淳氏、佐々木雄大氏



左から石田良男氏、伊波新之助氏、大谷卓雄氏